若手教員支援サイト

学級担任のまなざし　25

Okayama Prefectural Education Center

R2.7.10[Fri]

「思いやりの心」

図工の時間に使う牛乳パックを持ってくるように、子どもたちに連絡していました。

その日、子どもたちは「おはようございます！」のあいさつとともに、手に牛乳パックを持って教室に入ってきました。ふと、ある子どもを見ると、両手に牛乳パックを持っている姿が目に飛びこんできました。「二つ持ってきたの？」と言うと、その子は「お母さんが『忘れた人にあげてね』って言ったから、持ってきたの。」と答えました。お母さんのやさしさが伝わっているようで、その子はにこにこと微笑んでいます。また、私もお母さんの思いやりの心が伝わる話を聞いて、うれしくなりました。

後日、そのお母さんと話をする機会があり、牛乳パックの件のお礼を言うとこんな話をされました。

「自分がまだ子どもだった頃、私の母親は、学校で用意するように言われたものを私に持たせるとき、いつも少し多めに持たせてくれました。算数の時に使う空き箱、図工の時に使う輪ゴムや割りばしなど、元々家にあるものを持って行くときは、少し余分に持たせてくれたのです。」「それは何のためにですか。」と尋ねると、「母は、うっかり忘れた子どもや忙しくて用意できない家庭もあるだろうから、とよく言っていました。」

素敵なお話だなあと思いました。温かい気持ちになりました。なるほど、だからそのお母さんも、自分の子どもに同じようにしているのだと気が付きました。

思いやりの心を育てるというのは、こうした小さなところから行われるのだなあと感じました。私も、学級担任として、小さな出来事を大切にしながら、思いやりの心を持った子どもたちを育てていきたいと思いました。